様式３－２

令和　５年　　10月　５日

令和5年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・最終 ）

昭和北中学校区　校番25　学校名　昭和北小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	・基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・コミュニケーション力を発揮しながら主体的に学ぶ力を育てる。	○基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○「考える授業」づくりを推進し，主体的に学習に取り組む児童を育成する。	・「知識・技能」の領域において，算数科は目標値を達成することができたが，国語科は達成することができなかった。特に2年，3年，5年に課題が見られた。 ・週2回，朝に「はげみタイム」の時間を設け，国語科と算数科の学力補充に取り組んだ。タブレットのドリル学習（キュビナ）を全学年が活用したことで，児童は主体的に学ぶ習慣を身に付けた。 ・学年間，学級内において学力差があり，前学年の学習内容が定着できていない児童も見受けられる。 ・授業で話し合いや協働する活動を多く取り入れた結果，自分の考えを伝えたり，友達の考えを聞いたりすることができたと感じる児童が増え，目標値を達成した。 ・一方で，考えを伝えたり聞いたりすることにとどまり，そこからさらに考えを深めたり，再構築したりすることについては課題が見られた。	・国語科では，漢字の習得や語彙力を高めるため，辞書を使って調べたり，熟語や短文作りをしたりする学習を授業の中に仕組み，家庭学習でも取り組んでいく。 ・国語科，算数科を中心にしたタブレットドリル学習に継続して取り組み，必要に応じて前学年の学習内容に取り組ませ，進捗状況を確認しながら，学習内容の定着を図る。 ・多様な考えや思考が深まるような発問を工夫する。 ・友達と自分の考えを比べながら聞くようにさせることで，自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。 ・授業でのふり返りを大切にし，考えを再構築できるようにする。
★★	・児童の社会性を涵養するとともに，自己有用感を養う。	○児童の自己指導能力を育成する。 ○夢や目標をもち，それに向かって努力する児童を育成する。	・自分にはよいところがあると思っている児童の肯定的評価の割合は目標値を達成した。学級内だけではなく，学年間で児童を認め合う場や教職員が認める声かけをしていったことが有効であったと考える。 ・自分の気持ちを伝えることが苦手な児童や，自分を客観的に見ることができない児童は、肯定的評価が低かった。 ・キャリア・ログに夢や目標を記入した。また，それに対する振り返りを行ったことで，目標値を達成することができた。 ・夢や目標に向かって具体的な取組を行うことが不十分であった。	・今後もいろいろな学校教育活動の中で一人一人の児童を見つめ，個々のよさや頑張りを認める場を作る。 ・高学年は，行事や委員会活動，たて割り班活動などにおいて，リーダーや支える役割を果たすことで，学校みんなのために貢献する経験を積ませ，自己指導能力を育んでいけるようにする。 ・地域等の交流や豊かな体験，人との関わりの中から自分の目標や夢へとつながりをもたせた学びの場を設ける。（道徳科・総合的な学習の時間・学級活動） ・高学年は、夢や目標に向けて今しなければならにことを，前向きに考えていけるようにする。
★	・健康安全・防災・体力つくりへの意欲を高める。	○体力・運動能力の向上を図る。 ○基本的な生活習慣の徹底を図る。 ○防災に対する意識を高めたり，必要な知識を身に付けたりする。	・目標値は達成したが，高学年になるにつれて児童の肯定的評価の割合が下がっている。 ・体力テストの結果の数値が全体的に低下しており，体を動かすことやスポーツが好きな児童が多い反面，運動能力の低い児童も多い。 ・学年によって達成度合いの差が顕著に見られた。児童への指導の継続と共に家庭との連携や呼びかけをしていく必要がある。 ・ほとんどの学級が目標値を達成できたが，全学級が達成できるように取り組む必要がある。 ・学校内での避難の仕方は理解できているが，学校外や自宅で災害が起きた際の避難の仕方については，把握していない児童もいる。 ・災害を「自分事」として考えている児童が少ない。自分の生活に置き換えて考えていけるように指導していく必要がある。	・体育科の授業では，全学年で統一したサーキットメニューや体つくり運動を取り入れる。授業の中で取り入れた内容を休み時間の遊びに還元できるようにしていく。 ・健康安全部を中心に，教職員へ資料などの情報提供をしていく。 ・「呉チャレンジマッチ」に全校で取り組む。 ・2学期以降は「ににこにこチャレンジ」に学級目標を設け，校内で意識して取り組めるように環境作りをしていく。 ・校内の避難訓練から，自宅や通学路で災害が起きた際の避難経路等自分の命を守る行動について考えさせ，家族とも話し合う機会をもつ。 ・防災に対する知識や意識を高めるために，教科横断的な防災教育を推進していく。

業務改善	・持続可能な教育環境の整備	○長時間勤務の削減 ○児童と向き合う時間の確保	・時間外勤務が平均月45時間を超えない教職員の目標値は達成できなかった。夏季休業中のみ全員達成できた。働き方改革の意識を換えていくことが急務である。コロナ禍でこれまで中止されていた行事等が復活した影響も大きかった。 ・日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の肯定的評価は目標値を到達することができた。県主催のオンライン研修が充実し，全職員が校内で主体的に学ぶ機会を得ることができたのはよかった。	・主任を中心とし，各学年，各分掌で協働して授業や行事等に取り組む。 ・毎週水曜日の定時退校時刻を全職員で徹底して守るとともに，見通しや優先順位を決めるなど仕事の効率化を進める。 ・今後も日程を調整しながら，教職員が主体的に学ぶ機会を設け，児童に還元していく。 ・児童と向き合う時間を確保できるように，会議や行事，日程等を精査していく。